

県退教協だより NO. 84

長崎県退職教職員等連絡協議会
長崎市大黒町四一六 自治労会館ビル3F
☎〇九五―八二二―五一九五

第27回合同学習会

県退教協と県退女教は今年で二十七回になる合同学習会を、十月二十日に佐世保市労働福祉センター二階大会議室で開催しました。

今回は、私たちの最も身近な社会保障制度をテーマにして、日退教事務局長竹田邦明さんを講師に招き、今日の社会保障制度の現状と課題、医療と介護を中心にしたという演題で話をしました。

会には、県下各地(杵岐や五島を含めて)から五十八人が参加しました。最初に主催者を代表して、県退教協の八木会長がここ数年の安倍による危機的政治状況を中心に挨拶をしました。

続いて県退教協西村副会長は、十月十二日東京で開催され

た五者(日教組、日退教、全国退女教、教職員共済生協、教職員相互共済会)合同学習会での基調提案をまとめる形で、安心をなしての心豊かに暮らさないのはなぜかに絞



って情勢報告をしました。講演は、竹田事務局長から用意してもらった手作りの分厚い資料をもとに、パワーポイントによる説明で進められました。

はじめの部分では、社会保障は全ての国民の身近で最も大切な関心事の一つであることが、センター試験にも出題されていることを例にして説明され、具体的な話に入っていました。

情勢では次の3点について説明がありました。それぞれ注意すべき点が指摘されました。

その指摘とは、1 社会保障をめぐる情勢では、①給付と負担の現状、②給付抑制と負担増、2 医療をめぐる情勢では、①医療制度の見直し、②高額医療制度の見直し、③医療制度の見直しと実施時期、3 介護をめぐる情勢では、地域包括ケアシステム構築推進法(介護保険法「改悪」法)、利用者負担増の見直しでした。

社会保障をめぐる情勢では、百万人を切った昨年の出生数と主な年齢の平均余命(例えば65歳男では約20年、女では24年。この間保障を受ける)でこれからの社会保障を考えて行かなければならない現実と、消費税が10%になったとしてもその増税分の大半が借金返済に使われることになるという安



倍政権の社会保障政策の実態など、今のままでは保障がよくなることはないという明るくない話に聞き入りました。長崎県の退教協と退女教の会員の年齢構成と平均年齢を正しく把握はしていませんが、70歳以上の高齢者が75歳以上の後期高齢者に入るのはどのくらいか推測します。その中で健康で医療・介護費をほとんど使わないという人はごく少数だと思えます。そういう意味で講演のまとめ「今後の医療・介護の方向」では、財務省の2018年度以降継続検討項目とされている課題が説明されました。マイナンバーで正確な個人資産を把握し、取得の負担を増やす等取り、また、今年度の診療報酬と介護報酬の同時改定が行われます。

私たちがこの講演で、生活に直結する医療介護制度は、きちんと知っておかなければならないことを学びました。



にわとり八百羽との日々

島南支部 林田祥之

私たち夫婦は、2004年(平成16年)3月に一緒に退職したもので、義母がせひやりたいと始めた養鶏を引き受けて続けることになり増した。義母の長女である私の妻は、学校をやめたら農業を継ぐと決めていたので違和感はなかったようです。

牧場の施設設備、若鶏の購入等には資金が必要でした。餌は、愛野記念病院、愛野ありあけ病院、ガイアの里、プラスナイロンを回って残菜(1日に200kg、年に70トン)を軽トラックで回収し、早朝から毎日の日課としてやっています他に、木材のチップと米ぬかをEMで発酵させてボカシを作り、飼料米(粳)に年に7トン(1日20kg)購入した物と配合して、朝と昼2回餌としてやっています。水はEM活性液(EMXゴールド入り)を作り、1000倍に薄めて飲ませています。羽数は800で、半数ぐらいが卵を産みます。毎日卵を集め、きれいに拭き、パックに詰め、シールを貼り、店に卸します。愛野Aコープ、諫早の八種種ガルドのじけもん市、鈴田峠道の駅の道ノこだわり市、千々石の木場のタンポポ村などで売っています。とてもよく売れて毎日品切れになるほどですが、単価が安いのであまり黒字にはなりません。二男が義父の養子となり、跡取りと

なつたので、その子どものためにやっています。健康で楽しく暮らしているのは、養鶏のおかげかなと思つて自己満足しています。

”健脚”にガイドも納得

八幡製鉄所へ研修旅行

壱岐支部 米倉 徹

壱岐退教協では、毎年十一月に『研修旅行』を行っている。一昨年は大牟田の炭鉱跡、昨年は熊本天草、そして今年には九州方面ということになった。世界遺産となった宗像大社などの歴史を組み入れ、プランを練った。十月、八幡製鉄所に見学の申し込みをし、申請書と見学者の名簿を送った。しばらくして連絡が来た。「高低差の大きい階段などがあるので、75歳以上は見学できないことになっておりまして」という。まさか、年齢制限があるとは。一度はあきらめたが、研修旅行のメンバーだっただけに再度お願いした。「車中見学ではだめですか」と。二、三日して返事が来た。「車の中からならいいでしょう。」ラッキー！十一月二十三日フェリーで唐津へ渡り、金印で有名な志賀島を経由し、人気がグール「嵐」のCMで一躍有名になった宮地嶽神社、そして宗像大社を訪ね一日目が終わった。

二日目朝、八幡製鉄所へ向かった。到着すると、見学に先立ち説明があるというので、全員二階に上がった。その時私たちの”健脚”をじーっと見ていたガイドが、突然「大丈夫ですね。車中ではなく直接見てもらいましょ。」と言いだした。全員直ちに現場を見学できることになった。ラッキー！我が国の基幹産業の一つ、新日鉄八幡製鉄所。高さ1000mの溶鉱炉、二〇〇度の銑鉄は圧巻であった。我々は高さ300mほどの階段を上りきり、全員溶鉱炉の側まで行くことができた。次に、総延長200mの圧延工場へ。厚さ20cmの真っ赤に焼けた鉄板が、目の前を流れていく。熱風が何度か顔に当たると、鉄板は徐々に人のプレス機で叩かれ伸ばされ、1cmの鉄の板になっていく。全員200mの行程を歩ききった。八幡製鉄所を出て、途中県境にある雷山千如寺を訪ね、ピークは過ぎていたものの赤や黄色の紅葉を楽しんだ。今年の研修旅行は無事終了した。十二月の忘年会では、もちろん研修旅行が話題になった。参加者のメンバーから、「八幡製鉄所は一番良かった。ためになつた」との感想をいただいた。この研修旅行、九州圏内はほぼ回りつくしたとのことなので、今後検討が必要なのだろう。まだまだ歩ききる、登りきるパワーを持った壱岐退教協。政治については誰よりも熱く語る集団である。入会三年。この高齢パワーを引き継いでいきたいと思う。

こだわる

山川 剛

このところ「こだわる」ということ
 にこだわっている。「こだわる」には
 二つの意味がある。ひとつは、「つま
 らないことに心がとらわれて、そのこ
 とに必要以上に気を遣うこと」である。
 これはマイナスのイメージである。以
 前はこの意味だけだったが、今ではプ
 ラスのイメージで使われるようになって
 いる。それは「細かなことにまで気
 を遣って価値を追求すること」である。
 「こだわりの塩」とか「こだわりの宿」
 などよく目にする。私がこだわるのは
 「ことば」である。なぜか。一部の政
 治家、官僚、(御用)学者、マスコミ
 といった権力を持った側は、言葉を言
 い換えたり省略したりして、しばしば
 実体や本質を見えにくくしたり真実を
 隠したりするからである。
 一般庶民の場合は、たいてい笑って
 すまされることが多い。長崎のジイさ
 んバアさんの会話。例えば「あん人は
 原爆ばもつとつかねえ」「もたんと
 じゃなかあ」。東京語に直せば「あの
 人は被爆者健康手帳を持っていないか
 あ」「持たんのじゃないか」。つまり被
 爆者かどうかを問うている言い換え
 省略形である。整形外科で看護師さん
 が「〇〇さあ、もう首つったあ」。
 文字に直せば物騒でおかしくもあるが、
 その場ではまったく違和感はない。
 一方、権力者の場合はそうはいかな
 い。典型例は戦中用語だ。退却と言わ

ず「転進」と言い、むごい戦死を「玉
 砕」と美化した。戦後も自衛隊は戦車
 を「特車」と呼んだ。監視カメラなの
 に「防犯カメラ」とソフトに言う。原
 子力発電は「核の平和利用」だそうだ。
 本当は「核発電」である。「核の傘」
 と聞けば、日本列島を巨大な傘が覆つ
 ているイラストを想像するだろう。ア
 メリカの核がしつかり守ってくれる安
 心・安全のイメージである。ほんとは
 骨だけの傘より酷い破れ傘の筈である。
 だから日本政府は飛んでくるミサイル
 に対する迎撃の能力を明確に数字で示
 さないのだ。最大の弱点は、実際に近
 い抜き打ち的な本物の実験ができない
 ことだ。どんなミサイルをどこから何
 が発射するかが分かた上での実験し
 かねない。専門家は、迎撃はほぼ不
 可能と見ている。「憲法改正」という
 言い方をよくする。改正とは「不適当
 な点や不備な点を改め直すこと」であ
 る。悪いところを正しくするのは、改
 りで反対するのかが、と言いたいの
 定とか改憲とかが、いいのではないか。
 爆心地の銅板のプレートで「原爆落
 下中心地」と長崎市は表現している。
 枯れ葉は落ちてくるだろう。原子爆弾
 は落ちてきたのか？ 米国も負けてい
 ない。十六年五月二十七日にオバマ前
 大統領は広島での所感の冒頭、次のよ
 うに言った。「七十年前、雲一つな
 い明るい朝、空から死が落ちてきて世
 界は変わった」。オバマさんの言いた
 い。私は「自動詞の原爆観」と名付けた
 慎重に避けるのだ。実体を正しく言え

ば「空から死を落として世界を変えた」
 と言わねばならない。落ちたのなら責
 任はないが落としたとなれば誰が、な
 ぜ、どうやって...と面倒なことになる。
 行政の考えることはよく似てるなあと
 妙に感心してしまう。
 ここまでのお気づきのことと思うが、
 ことばにこだわるといことは、こと
 ばが包含する「ことばら」にこだわ
 ることに他ならない。
 おしまいに十二月八日の新聞社説に
 こだわってみよう。八月十五日の新聞
 は、「紙もれなく社説は「終戦記念日」
 を書く。ところが十二月八日に「開戦
 記念日」を社説で書くのは、全国紙は
 ほぼゼロで、地方紙は長崎新聞と中日
 新聞(その系列の東京新聞)くらいで
 ある。敗戦(たいていは「終戦」)は
 結果である。その原因になったのは「開
 戦」だ。結果は書くが原因は書かない。
 なぜだろう。それは、被害は書くが加
 害は書かないということがある。8
 15と12・8の社説の取り扱いは、
 あまりにバランスを欠いているのでは
 ないか。マスコミが「開戦の日」を避
 けることで、戦争(体験)への無関心、
 とりわけ若者の無知・無関心の醸成に
 手を貸しているのである。マスコミは
 なぜ12・8を避けるのか。政権への
 付度か、あるいは最も恐ろしい自主規
 制か、ひょっとして無知・無関心か。
 マスコミが権力監視という本務を放棄
 すること、即ちマスコミの劣化は改憲
 に直結するに違いない。私たちは、自
 分が一番関心を持つ事柄に徹底的にこ
 だわり続けようではないか。

高齢者の交通事故について

教職員共済生活協同組合長崎県事業所
所長 上川 剛史

高齢者の交通事故といえればこれまで被害者(交通弱者)としての立場が強調されていきましたが、昨今、高齢者が運転する車が悲惨な事故を招いたことが多く報道され、加害者としての高齢者の運転が問題視されるようになっていきました。警察庁によると、75歳以上の高齢者のアクセルとブレーキの踏み間違え事故は2016年、全国で897件起きました。内2016年十一月、84歳女性(教職員共済の組合員)がブレーキとアクセルを間違えて踏み、会社員の男性(33)とパート従業員女性(33)の2人をはねて死亡させるとい痛ましい事故がありました。加害者の女性は、入院中の夫の看病で疲れていると、尊い命を奪ったという事実は余りにも重いものです。

高齢者による交通事故で、高額給付事例(教職員共済本部より)を挙げてみますと、
(東京)組合員本人(83歳)が運転、駐車場より道路へ出る時にアクセルとブレーキを間違え被害者に衝突、死亡。(約1,800万円)
(熊本)組合員本人(81歳)が運転、崖から転落し死亡(約2,100万円)
(北海道)組合員本人(81歳)が運転、

交差点右折で自転車を押して横断中の被害者と衝突、高次脳機能障害で2級1号の認定(約1,300万円)
など、一瞬の不注意で自他の命を奪ったり、傷害を与えたりしています。

これらの事故を防ぐには、「免許の返納」とその代替措置「自動ブレーキ装置」など先進安全自動車(ASV)の開発、普及「など行政や自動車メーカーなどいろいろな考えてはいますが、特効薬はありません。家族の協力、ご自分の心身の健康チェック、交通法規遵守意識の向上など、最後は高齢者ご本人の意思のありようだと思います。もちろんこれまでもおりだと思えます。もちろんはいけません。被害者にも加害者にもならないために、こういった事故を他人事と考えず、自分にもありうることで常に考える危機意識を持つておくことだろうと思います。

事故だ！
(交通事故を起こしたり、被害にあったら)

- すぐ教職員共済に連絡を
095-825-8173
(長崎県支部)
0120-492-509
(事故受付センター
24時間受付)
- 近くの指定工場にも
~自分の共済の確認を~
《自動車共済》
《交通災害共済》

編集後記

大雪で交通が大混乱した思っていたら、春一番が吹いて、いつの間にか梅が咲き揃っています。学校現場ではインフルエンザが流行って、子どもや親、教職員を苦しめています。高齢者にとっては軽く見たら命取りになります。気をつけて生活したいものです。

編集委員の私は、長生き願望で日帰りで行けるあちこちの山を歩いていています。ここ1月の間では、地元経ヶ岳山腹にある、日頃ソーメン滝と呼んでいる滝の氷瀑を見ることができました。数え切れないくらいその場所を歩いていますが、見たのは初めてでした。感動して、仲間を連れてまた見に行きました。昨年末には、佐賀県の山で偶然雪の中に芽吹いている露の臺を見つけてきました。もちろんいただいて帰って、天ぷらで食べました。命の息吹を感じました。



冬のオリンピックのフィーバーの間にも、私たちにとつての悪の根源者は、働き方改革と称して、でたらめな根拠を指摘されても「裁量労働」を含めた法律を国会でゴリ押ししようとしています。この紙面が届いた時は、経営者に都合のよい労働環境にしているかも知れませんが、参議院の憲法審査会では福島瑞穂氏は自衛隊明記の憲法改悪は「戦争改憲」と述べています。私たちが現在取り組んでいる「安倍9条改憲NO! 憲法を活かす全国統一署名」でなければならぬと思います。